

授業科目名	成人聴覚障害実習（聴力検査含む）	授業形態	演習	配当学期	2年（前期）
担当教員名	上村 朋久	単位数	1単位	時間数	30時間
授業概要 学習目標	<p>〔授業概要〕</p> <p>1年で学習した聴覚検査の内容をもとに実習を深めるとともに、純音聴力検査以外の検査についても学ぶ</p> <p>〔学習目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・純音聴力検査、語音聴力検査をマスキングを利用して実施できる。 ・閾値上の検査について実施できる。 ・国家試験レベルの問題の傾向と対策を知る 				
授業回数	授業内容				
第 1 回	外耳道閉鎖効果と純音聴力検査				
第 2 回	純音聴力検査とマスキング法				
第 3 回	演習				
第 4 回	演習				
第 5 回	語音聴力検査とマスキング				
第 6 回	演習				
第 7 回	演習				
第 8 回	閾値上検査				
第 9 回	演習				
第 10 回	演習				
第 11 回	演習				
第 12 回	国家試験対策				
第 13 回	国家試験対策				
第 14 回	国家試験対策				
第 15 回	まとめ				
評価方法	各授業での小テスト（20％） 期末試験（80％）				
教科書 参考図書	〔教科書〕 聴覚検査の実際(改訂4版) 南山堂 2009				
履修上の 留意点	相互被検者で実施します。検査者と被検査者とが固定化しないように留意ください。				
メッセージ	語音聴力検査も習熟が必要です。補聴機器の要否や訓練を考える場合、気導、骨導値の確定と語音聴力検査は「セット」と考えておく必要があります。そのため、検査時間は30～40分が限度だと思います。練習していきましょう。				